彩の国
埼玉県

平成30年3月発行　第10号

埼玉県立 小児医療センターだより

●埼玉県立小児医療センター
〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2
Tel▷048-601-2200（代表）　Fax▷048-601-2201　E-mail▷n581811@pref.saitama.lg.jp
URL▷https://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/index.html

地域連携・相談支援センターの紹介
―病院の縁の下の力持ちとして―

副病院長　望月（もちづき）　弘（ひろし）

埼玉県立小児医療センターがさいたま新都心に移転しておよそ１年３ヶ月になります。駐車場の件など様々な問題はありますが、お陰様で多くの患者さんに来院していただいております。外来患者さんが最も多い日で835名にのぼり、入院患者さんで病棟が満床になることもあります。新病院への移転後、ほぼ順調に病院運営が行われていることは、ひとえに皆様方のご支援によるものと深く感謝申し上げます。

当センターは紹介制の第三次医療機関ですので、難しい病気や重症の患者さんが多くいらっしゃいます。それらの患者さんは様々な問題をかかえていることが多く、いろいろな手続きや保健センターなど地域との関わりが必要なことがあります。その時頼りになるのが地域連携・相談支援センターであり、地域連携・相談支援センターは病院の縁の下の力持ちであると言えます。私は地域連携・相談支援センター長を拝命しておりますので今回の「小児医療センターだより」でご紹介させていただきます。

地域連携・相談支援センターは２階の正面玄関を入り総合受付の奥にあり、地域連携部門と相談支援部門で構成されております。

地域連携部門は病院の窓口であり、各種情報の発信基地としての役割を担っております。外来診療の予約については、患者さんご自身やご家族に予約センターで予約を取っていただいておりますが、早期受診が必要な場合、複数の診療科を受診する場合、在宅医療の患者さんで外来受診の負担が大きい場合などは地域連携・相談支援センターの職員が介入し、調整を図らせていただいております。また、紹介をいただいた地域医療機関の先生方へ患者さんの来院状況、診療経過等を極力速やかにご報告しております。

相談支援部門は地域の保健・福祉・教育等関係機関と連携し、病気や障害を抱える患者さんとご家族が「当たり前に」生活していけるよう、SW（ソーシャルワーカー）、看護師、CLS（チャイルド・ライフ・スペシャリスト：簡単にご紹介しますと、遊びを通じて子どもの医療にまつわる経験を支援する職種です）などの専門職が協同で支援させていただいております。また、小児がん拠点病院の相談支援センターとしての機能も担っております。診療時間内は相談窓口に職員がおりますので、書類のこと、悩んでいることなどありましたらご遠慮なくご利用いただけます。

地域連携・相談支援センターでは、多様な情報を一元的に管理し、患者さんのニーズに応えるとともに、地域医療機関及び関係機関との連携を大切にしていきたいと考えております。各種研修会の企画や懇談会などの開催を通して、顔の見える関係を築いていきたいと思っております。

今回の「小児医療センターだより」では地域連携・相談支援センターの主要なスタッフであるソーシャルワーカー、在宅支援相談担当の紹介及び地域連携・相談支援センターに関わりが多い総合診療科、耳鼻咽喉科の紹介を掲載いたします。ご参考にしていただければ幸いです。

今後とも小児医療センターへのご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

埼玉県立小児医療センターだより　第10号　ご案内

○　副病院長　望月　弘　挨拶 ……p.1
○　総合診療科の紹介 ……p.2
○　耳鼻咽喉科の紹介 ……p.3
○　在宅支援相談担当の紹介 ……p.4
○　ソーシャルワーカーの紹介 ……p.5
○　お知らせ
　ボランティア活動の紹介 ……p.6
　受診のご案内・アクセス方法など ……p.6

＜部門紹介＞

総合診療科

総合診療科　田中（たなか）　学（まなぶ）

当センターがさいたま新都心に移転し、新たに専属の救急診療科および集中治療科が起ち上がったのを機に、総合診療科の役割と立場は大きく見直されました。本稿では、総合診療科の現在について記したいと思います。

総合診療科は、どんなことをしているか

「小児科医は、こどもの総合医です」（日本小児科学会ホームページより）と言われているように、小児科医は子どもたちの体を総合的に診ることを期待されています。当センターは、子どもたちの病気や心身の不具合を臓器別の専門分野に分かれて診療する総合病院です。そのため小児科の名称は看板には掲げられておらず、成人診療の内科と同様の形式をとっています。その中で、総合診療科は複数領域の診療が必要な患者さんの主治医となったり、明確には専門領域に当てはまらない症状や経過の患者さんの管理を行っています。集中治療室に入院し、そこから退室となった患者さんの治療を引き継いでご自宅での生活にお戻しすることも私達の業務の一つです。

医療機関の先生方へ

総合診療科は、他の専門診療科と区別して以下のような患者さんの紹介をお受けするようにしています。

- 救急にかかるほどの緊急性はないと判断される急性経過の患者さん
- 専門分野のいずれにも該当しない、または判断し難い症状・経過の患者さん
- 複数領域の医学的問題点を持つ患者さん

患者さんが来院されたあと、改めて私達の方で状態の判断をさせていただき、必要に応じて他の診療科や専門スタッフと連携しながら、問題解決にあたります。患者さんの状態が落ち着いたところで、改めて先生方の医療機関への通院にお戻しする場合があります。

後期研修医（小児科専攻医）について

当センターは臨床研修病院です。信頼される小児科医を育成するため、他の診療科と同様、総合診療科では入院中あるいは救急受診される子どもたちの診療を専任スタッフとともに研修医がおこなっております。患者さんご家族と適切な意思疎通を取りながら、実際の診療を大切にして診療技術や姿勢を磨けるように支援をしております。

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科　浅沼（あさぬま）　聡（さとし）／安達（あだち）のどか

当科では小児耳鼻咽喉科領域全般を扱っておりますが、一般外来の他にいくつかの専門外来があります。

専門外来では、新生児聴覚スクリーニングで発見された乳児を対象とした「難聴ベビー外来（一部音楽療法あり）」、「人工内耳外来」、「補聴器外来」、「気管切開外来」、「喉頭／気管外来」、「サイトメガロウイルス外来」などがあります。

尚、1.2.4.は言語聴覚士（ST）と共に評価や指導を行っていきます。

１．難聴

１）難聴の診断

新生児聴覚スクリーニングで要再検となった児の精密聴力検査実施機関に指定されております。生後６日頃からの新生児や乳児が多数紹介され、当日に生理検査室の協力の上ABRを施行し同日に結果説明が可能です。

両側60dB以上の感音難聴が判明した場合は、難聴ベビー外来で対応し、難聴原因精査、聴覚管理、補聴器調整、その後の療育への橋渡し的な存在として連携をとっています。

両親への精神的サポートが一番重要な時期で、多くのサポートにより不安を軽減できるような工夫を行っています。チーム医療（耳鼻科、各診療科、ST、看護師、社会福祉士、難聴児を持つボランティア）、音楽療法士による楽器を使った音楽療法や、親への講義を行っています。

２）各種聴力検査（生理検査室での検査も含む）

他覚的聴力検査：ABR、ASSR、DPOAE

自覚的聴力検査：BOA、COR、Play Audio、純音聴力検査、語音聴力検査

などを適宜組み合わせて行うことで、０歳代からの補聴器フィッティングや、機能性（心因性）難聴の確定診断、軽度～中等度難聴に対する補聴器の有用度の判定、人工内耳手術が有効性の判断（聴力検査結果および補聴器での効果判定、療育施設との情報共有）

３）難聴原因検索

側頭骨CT：耳小骨や内耳異常、蝸牛神経管狭窄（CND）などの精査

頭部MRI：特に人工内耳手術前やCMV感染症の場合は重要な情報となる

サイトメガロウイルス感染症（CMV）：両側高度難聴を認める場合は全員精査を行い、治療対象かどうかの判断を感染免疫科と共に行う

遺伝子検索（遺伝科）：高度難聴の場合は希望者には全例Connexine26（GJB２）遺伝子変異の精査が可能、その他の遺伝子については要相談

2. 在宅気管切開管理

3. いびき・睡眠時無呼吸の精査・診断・治療

4. その他

① 外科的治療（耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頸部の各領域）

・耳（全身麻酔下）：難治性滲出性中耳炎、癒着性中耳炎、真珠腫性中耳炎など

約10年前より取り組んでいる癒着性中耳炎に対するCartilage palisading techniqueを用いた鼓室形成術は、特に再発が多いされる鼓膜再癒着の予防に有効と思われます。また聴力改善手術についても可能な限り就学前までに試験的鼓室解放術および難易度の高い聴力改善手術にも積極的に取り組んでいきます。

・副耳切除術：０歳代で軟骨を含まない小さな副耳であれば外来にて結紮術が可能です。軟骨を含む場合は２歳以降目安で全身麻酔下での手術を予定することが多いです。

・鼓膜チューブ留置術：可能な限り外来での局所鼓膜麻酔下にて施行します。

外耳道が小さい場合、鼓膜の癒着を伴う場合、暴れて処置が困難な場合は、全身麻酔下にて行います。

② ‘ことば’についてのご相談

ことばの発達が遅い、ことばの数が少ない、発音が不明瞭、構音障害、など様々な相談があります。

聴力が影響していないかを年齢に合わせた聴力検査により的確に評価し、正常の場合は発達面の評価を発達外来で精査を予定します。

耳鼻科領域での‘ことば’に影響を及ぼす部位は、口腔内（舌小帯、口蓋裂、粘膜下口蓋裂など）、鼻咽腔閉鎖不全などあり、診察・評価の後STによる評価・訓練等を行います。

以上の分野ですが、慢性的に患者予約が取りにくいという現状にあり大変ご迷惑をおかけしております。申し訳ございませんが、状態が落ち着いた後はかかりつけ耳鼻科での治療・経過観察を引き続きお願い申し上げます。

今まで通り、緊急を要する場合や通常より早く診察が必要な場合は随時対応させて頂いております。色々とご迷惑お掛けして申し訳ございませんが今後とも宜しくお願い致します。

写真１：外来受付

写真２：耳鼻科診察室

写真３：聴力検査室

在宅支援相談担当の紹介

師長　五十嵐（いがらし）　美（み）　和（わ）

在宅支援相談担当は新病院への移転に伴い、「地域連携・相談支援センター」内に設置されました。６名の看護師が、お子さんの突然の病気による入院生活から、退院後の生活が早期に迎えられるようになるまで支援をさせて頂いております。

また退院後においてもお子さんとご家族が医療ケアを行いながら、安心して自宅での生活が送れるように院内の連携はもとより、地域の訪問看護ステーション、保健所や教育機関等と連携を図らせて頂いております。また、より良い支援が提供できるように、地域関係機関の方へ研修会を開催し、知識や技術の向上につながるよう支援をさせて頂いております。

私たち看護師６名は、医療ケアを継続しながらご家族と共に、お子さんの成長していく過程を一緒に喜びあえる相談室でありたいと願っております。

朝のスタッフミーティング

病棟ラウンド

相談窓口　―２Ｆ６番窓口―

小児在宅看護研修会

ソーシャルワーカーの紹介

ソーシャルワーカー（以下SW）は、地域連携・相談支援センターに所属し、在宅支援相談室の看護師、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、地域連携事務職員と共に、常勤３名、非常勤３名の計６名の体制で業務をおこなっております。平均年齢45歳の女性のみのチームで、女性力・主婦力・母親力（そして婆力）という生活者としての感性に社会福祉の視点を上乗せし、患者さんとご家族の【当たり前の暮らしと営み】が保障されるよう、日々頑張っております。ご相談の内容に応じて行政機関や地域関係機関に連絡を取り、また院内の関係するスタッフや患者さんと一緒に、地域に足を運んで直接ご相談させていただくこともしばしばあります。

SWのミーティング

〈こんなご相談に応じています〉

- 医療費の支払いに不安がある、生活費が心配
- 社会生活（幼稚園、保育園、学校生活、就職等）について相談したい
- 病気の子どものきょうだいのことで相談したい
- 子育てがつらい、大変
- 受診に関することや病院の移行に関すること　など

相談窓口

＊小児がん相談支援センター

当センターは小児がん拠点病院に指定されており、小児がん相談支援センターを設置しています。小児がんの治療をするお子さんとご家族の療養生活の不安や負担を軽くするために、社会福祉資源を紹介したり、生活や様々な不安に対する相談を伺っています。相談室前には情報コーナーを設置しており、病気に関する資料、社会福祉資源（経済的支援、家族滞在施設、ウィッグ等）、家族会、支援団体についてなどのリーフレットをご用意しております。また、当センターを受診していない患者さんやご家族の方のご相談も受け付けております。

情報コーナー

＊ＳＷが考える地域連携

当センターは小児の専門病院ですが、子どもは必ず大きくなっていきます。病気や障がいを抱えながらも、地域の方々に「○○町××番地に住んでいる△△ちゃん」と認識していただくためには、小さい頃から地元の医療機関や関係機関との繋がりを持つことが大切です。現在は、成人期を迎えつつある患者さんについて（地域の先生方）へご相談させて頂くことが多いのですが、ご家族の歴史やお子さんのこれからの人生を考える時、早い時期から地域との連携が不可欠であると考えます。

まだまだ未熟な私たちですが、お子さんおひとりおひとりの状況に合わせて丁寧な対応を心掛けていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

お知らせ

ボランティアの活動について

小児医療センターでは患者さん、ご家族のために、たくさんのボランティアさんが活躍しています。
今回は外部のボランティアさんの活動内容をご紹介いたします！

カリヨン文庫（本の読み聞かせ、お話し会）
NPO日本ホスピタル・クラウン協会（クラウンの病棟訪問）
セラピードッグ（ワンちゃんによるアニマルセラピー）
ドナルド・マクドナルド・ハウスさいたま（ドナルド君訪問）
NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク（青い目のサンタ訪問）
NPO法人子ども文化ステーション（ストリングラフィのコンサート）
NPO法人子ども文化ステーション（人形劇団ののはな公演）
NPO法人絵本カーニバル（病棟に絵本の展示、ミニ絵本作り）
認定NPO法人芸術と遊び創造協会（ホスピタル・トイ・キャラバン）
アロンジェの会（ミニバレエ公演）
（株）さいたまアリーナ（大道芸公演）
浦和レッズ（選手の病棟慰問）
大宮アルディージャ（選手の病棟慰問）
西武ライオンズ（選手の病棟慰問）

医療機関の皆様へ　受診のご案内

①患者ご家族からのご予約

紹介元医療機関 → 紹介状（診療科が明記されているもの）

患者さん予約の電話 →

予約センター
受付時間（9時～17時　土日祝除く）
一般外来
☎048-601-0489
保健発達部門
☎048-601-2165

患者さん来院 →

予約当日にお持ちいただくもの
①保険証
②医師の紹介状
③母子健康手帳
④医療券
（公費負担を受けている方）

②医療機関の先生からのご予約・お問い合わせ

紹介元医療機関

→ **緊急診療（当日診療）の場合** → 電話交換手へ緊急性があることをお伝えください（365日24時間対応可能）

→ 診療科が明確な場合はその「**診療科医師**」へおつなぎしますので、ご相談ください

→ 休日・夜間又は、診療科が不明確な場合は「**救急診療科医師**」へおつなぎしますのでご相談ください

小児医療センター　代表電話
☎048-601-2200

→ **・当日の受診ではないが早期診療が必要な場合**
・紹介状の診療科が不明確で相談したい場合 → 電話交換手へ相談内容をお伝えください
受付時間（9時～17時　土日祝除く）

→ 「**地域連携室**」が対応します
まずは現在の症状が分かる診療情報提供書をFAXで送っていただき、調整の上ご連絡します
FAX番号 048-601-2237

病院へのアクセス

■公共交通機関をご利用の方

- JR京浜東北線、宇都宮線、高崎線「さいたま新都心駅」から徒歩約５分
- JR埼京線「北与野駅」から徒歩約６分

※歩行者用デッキを点線に沿ってお進みください。

■お車をご利用の方

- 駐車場は有料になります。
- 機械式駐車場には車両のサイズの制限があります。

※ご利用の時間帯によっては、車両が集中し、入庫まで大変お時間がかかることが予想されます。
できるだけ、公共交通機関のご利用をお願いいたします。